台湾で考える
日本文学教育

多元文化交流

東海大學日本語文學系

二〇一二年

第四號

ISSN 2078735-9
00250
9 772078 735009

ISSN 2078-7359

多元文化交流

Vol. 4
2012 / June

東海大學日本語文學系

＜実践報告＞

傍らから済洲島江汀村海軍基地建設阻止運動

黄淑燕

韓国は国策として済洲島で海軍基地を設置しようと計画したのは 1993 年金泳三時代からだそうだ。その後は済洲島からの反対もあり、何年か中断した。2003 年盧武鉉大統領が四三事件のために正式な謝罪をし、2005 年 1 月 27 日、済州島を「世界平和の島」とし、四三事件を韓国の歴史事実と認めた。が、2007 年 6 月 22 日に、「武装なくして平和は守れない」とし、海軍基地の建設工事を再開した。2002 年、2005 年段階での有力候補地として西帰浦市の軍港和順港（ファンスン）や為美里（ウィミ）が挙げられていたがそれぞれの強い反対もあり、二転三転し、2007 年 3 月には和順港（ファンスン）、為美里（ウィミ）、江汀洞（カンジョン洞）、月坪洞（ウォルピョン）、兎山里（トサン）、涯月邑（エウォルウプ）など、8地域を候補としてあげた。

そんななかで 2007 年 4 月 11 日、江汀村会が誘致希望を発表したのである。そして、瞬く間に 5 月 14 日には道知事による誘致発表、5 月 22 日には国防省が同意及び建設の基本計画・設計が着手された。その通報を受けてようやく江汀村は 7 月 12 日に「済州海軍基地阻止・全道民対策委員会」が結成され、4 月の江汀村会における誘致決議は、住民 1900 人の内、87 人のみが参加して行われた村会議で、拍手で海軍基地誘致の決議をしたことが暴露された。そこへ、江汀村の住民投票が行われ、村の有権者 1050 人のうち、725 人が投票に参加し、反対 680 人（94％）・賛成 36 人・無効 9 人という結果となった。が、すでに 48 万平方メートルの土地も収用され、基地の基礎建設も始められていたため、やめられないと。

そこへ江汀村の基地反対運動の果てしない戦いがはじまったのである。（付録事件簿に参照）

同じ村の中に賛成派と反対派があり、反対派が反対運動を進めていくうちに、もともと団体意識の強い江汀村というコミュニティーの分断がどんどん深刻化し、同じ家族なのに、挨拶さえしない状況までになってしまっている。ある報道によると、村住民Ｈ(50・女）氏は「仲良く暮らしてきたのに、今は第三者を通じてお香典や祝儀金を伝えなければならないほど葛藤が深刻だ」と。が、だからと

いって、やはり阻止運動はやめるわけにはいかないのだ。

2011年9月、海軍によるフェンスが設置完了してから、住民は工事現場となる海岸からシャットアウトされた。フェンスの入り口から一旦人力、材料、道具が運び込まれたら、海軍の意のままに工事は進む。今の江汀村反対派住民の唯一できることは、海軍が何か搬入しようとする時に、フェンスの入り口で何とか入るのを手間取らせることだけとなった。搬入の動きがある度に、村中にサイレンを鳴り渡し、参加指示の放送をする。それを聞いたら、参加者は、即座に手元の仕事を放り出し、工事現場に向う、というのが手順である。

そして、そのサイレンは毎日のように鳴るのである。

2012年2月9日、我々が江汀村を訪れた日、またしもサイレンの鳴り止まぬ一日だった。工事現場のフェンスの入り口に立って、われわれはその一部始終を見てしまった。

午後一時過ぎ、目の前にさまざまな人のさまざまな動きが展開された。手を組んで静かに大型トラックの車頭を背にただ立つ男性。子どもを背中に負んぶしてトラック運転手とにらめっこする女性。トラック運転手に向かって、手を合わせお願いをする女性、論議する男性。あっちこっち歩き回り、大声で反対を訴える男性。盾を持った何百もの警察に道端に寄せられたわれわれ。横でその警察たちに説教する女性もいるし、またただ泣く女性もいる。

が、三時前に、トラックはやはり入っていってしまった！ゴーゴーと巨大工事用トラック、10何台はあるのだろうか、一台また一台、立て続けに海軍基地建設工事現場へ。チェチュー（済洲）島カンジョン（江汀）村反対派村民の声を圧しひしぎながら。民主の時代であるはずなのに、守ってくれるはずの国なのに、その巨大な力に対する民衆の力なさと切歯扼腕の気持ち。トラックの行進を目の当たりにし、踏みにじられる気持ちとは、こういう気持ちだったのか！無力感がむなしくて涙が止まらなかった。

佇みながら思い出す。一時期、台北では都市を美しくするため、政府がスラム撲滅に乗り出していた。ところが不法占拠の住民は転出を嫌がり、抵抗していた。国の土地なのに、追い出すのに、賠償金よこせやら、賠償金が少なすぎるやらと、この連中、何考えているんだ、まったく恥も外聞もないよ、と。土地問題ではなくても、テレビで何やら抗議行動を見るたびに、いつまでわけの分からないことを繰り返し訴えるのだ！と、そう思っていた。228事件という事件があったんだ、と大学卒業後初めて知るまでは。

この日の江汀村での阻止活動のときにも、アイパッドで現場を生放送しながら、滔々と述べ立てている人がいる。何を言っているの？と聞いたら、「民衆を守るためにたくさんの警察が動員されている」とか「民衆が警察に暴力を振るっている」とか。どのようにこの阻止活動が見られているのだろう？この5年間にわたる抗争について、メディア戦と言ってもいいぐらい、いろいろな言説が飛び交う。が、どう調べても反対派は北朝鮮を支持するアカであることを暗示するような言論が大勢を占めているようしか思えない。

韓国の国民はどの言説を信じているのだろう？あるいは関係ないと思っているのだろうか。もしかしたら、台湾の228被害者も時にはそう思われているように、この四三事件発生地の人たち、といってもそのうちのわずか一部の人たちだが、いつまで被害者面するのだ、とても思われているのではないだろうか？

確かに、現場にいる村民は 50 名ぐらいしかいなかった。が、その50名に対して動員された警察は、500名はいたのではないか。

国益を守るために、誰かがどこかで犠牲をしなければならない。犠牲されたその誰かが異議を申し立てたら、自分の利益ばっかり考えるエゴイストだと思われてしまう。が、そもそも、その国益とは誰がどこでどのように決めたものなのだろう。国益を口実に民衆から略奪している権力側こそエゴイストだ、そうではないことを誰が保障できる？

思うが、「国のため」という言葉は時代とともに違って響く。結果的に本当に国のためになったかどうか別として、「国」というものが作りたてられた時代では、真剣に「国のため」に何かしようとがんばる人はいたようにも思う。が、現実的過ぎた今世代の権力者たちは、その掴み所のない「国」に、果たしてどれぐらい本気で忠誠を誓っているのだろうか。それに対する多くの民衆も自分のことだけで手が回らないのか、「国益」のために犠牲された･る人のことなど、かまっている暇なんてない。犠牲されるグループの中の人でさえ、ある先生が言うように、分からない、何で抗争するの？どうせ勝ち目がない、または勝つためには苦労が多すぎるから、自分の将来や生活を考えるなら、むやみに抗争するより、そういう問題のないところに引越ししちゃったほうが面倒くさくないのでは？

それが、地域の人でもないのに、抗議活動にはつき物のように、外部の「活動家」が居座る場合が多い、のだ。なぜなんだろう？

どの反対運動にも出てくる、同じ顔ぶれで、まるで反対するためにいる職業的な反対運動家たちがいる。今回も平沢で活動していたが平沢の反対運動が下火になったので、

江汀村に来た人が多いと聞く。そういえば、今一人で平沢平和センターでがんばっている姜相源カン・サンウォンさんもまた平沢にとっては外部から来た人だった。学生運動、労働連を経て、16 年前に労働組合を作るために平沢へ来たという。16 年も腰を据えていれば、地元住民だといえようか。地元だからいいのか？だから、反対運動をする人も、反対するなら、地元住民にならなきゃと、住民票の転入登録もするのか？確か陸地から来たキム・ドンファさんも江汀村の住民となった。教えてくれた Emily Wong さんは口調がほっとしているように感じた。

ともかく、当事者性を強調し、抗議活動を批判する抗議仲間も多い。地元の声、地元の人たちが主張していると言うが、外部の人ばっかりじゃないか！こんなの、地元の声なんかじゃない。権力を主張する資格のある人じゃない！と。答えに窮する詰問だが、が同時に「何の利益にもならないのになぜ？」と考えてしまう。

「あることに反対するなら、そのことがどこで起きても同じように反対するのは当然だろう」とキム・ドンファさん。納得する理由が見つけられたような気がする。自分の主張で地元の人を行動に導く点では、やはり引っかかる一方、それの何が悪い！と思ったりもする。活動家たちの方も、このジレンマを解消するためか、或いはひっきりなしの「なぜここに来たのか、なぜこの活動をしているのか？」質問攻めに答えるためか、住民登録をしたり、時には人にわかるように自分を語る物語も作らざるを得なくなる、ように見える。人に分かってもらうと同時に自分に納得させるためでもあるのではないのだろうか。

その場合、どのようなロジックで物語を発展させるのだろうか。

台湾台東にある阿朗壱古道は文化遺産だから残すべき、該当海域に国が指定する天然記念物の生植物がたくさん生息しているので、核廃棄物処理場を作るべきではない。近くに文化遺産も天然記念物もないので、核廃棄物処理場を作っても害はない。が、曖昧すぎた「近く」のうえに、唯一の拠り所となる文化遺産、天然記念物の認定もまた論理言説に頼るところが多すぎる。

同じロジックで話を進めなければコミュニケーションできる土台も築かれない。が、そのロジックはどうも主流によって決められるものである。ただ「ここに慣れたから、ここにずっと住みたいから、このままが好きだから」なんて個人的なわがままではだめなのである。しかも、そのロジックの根拠とは、力によっていくらでも変えられる、唖然とさせられるものである。済洲島江汀村グロムビは国から天然記念物の認定を受けていたが、基地建設

が決定して、認定も取り消されてしまったのである。

2012 年 2 月 9 日済洲島江汀村の阻止活動では、4 人、逮捕されている。

毎日のように村中を響くサイレンがいつ止むのだろう。と期待もしながら、サイレンが止む日が来るのを想像するだけで、やりきれなくなる。

追伸:

その一、なぜ兵役に行っている兵士が警察に変身し、民衆の抗議活動に借り出されているのか？警察は国内の社会の安全を守るために悪を取り締まる組織で、兵隊は外国からの侵略を抵抗する組織であるはずだ。なぜそのごちゃ混ぜが許されるのか。昔は稲刈りに兵隊が借り出され、今は災害救援にありがたく借り出されるが、それがいつの間にかついに国内の民衆反対運動にも侵食して来たということなのだろうか。

その二、平沢の米軍基地は大きな大きな弾薬庫を基地の一番天辺、つまり韓国民間人住まいに一番近いところに設置していた。基地の外、つまり韓国民間人住まいの中にも設置した。7 年前かな、メキシコに行ったとき、イスラエル人の若いカップルと会った。イスラエルというと、国民全体が鉄の意志で作った国なので、国への求心力が堅く、全民兵隊でその国を守っていると思っていた。が、機会があったらどこへでもいいから今すぐにそんな国から抜け出したい！と女の子はヒステリックに言った。「なぜ？」街中を歩いていても、いつ、どの建物が、どのバスが爆発するか、分からないんだ！信号などで、私の車の横にバスなどが止まっていたら、震えてしまっているばっかりで、どうしようもないんだ。爆発力ランク 1 が集まる弾薬庫のすぐ横に住まいを構えている韓国の人たち、どういう心境で毎日を送っているのだろう。

その三、5 年間に渡る抗争の毎日、農民、漁民だった江汀村の村民はいつの間にか「国家安全」議題のプロになった。警察、裁判所行きは生活の一環となり、留置所入りにも慣れて、ほぼ全員、国への罰金未納者となっている。そして、罰金や取り締まりの対象にされないため、国を相手に反対運動を起こすときには、顔を隠すものだと学んだ。

その四、ハイテクノロジー基地と称し、基地建設に携わっているのは国と癒着度の高いサムソン建設（Samsung Engineering & Construction）大林建設（Daelim Engineering & Construction）である。

付録:済洲島江汀村海軍基地建設阻止運動事件簿

日にち	江汀村など反対派の動き	政府･海軍側など推進派の動き
2002 年	ユニスコ、済州島を「生物圏保全地域」として指定。	
2004/10/27		（済州島議会が江汀海岸を絶対保全地域と指定）
2005/01/27	四三事件が正史入り、「転型正義」と呼ばれる	（盧武鉉大統領が済州島を「世界平和の島」とした。）
2006 年		（韓國環境部會、江汀洞一帯＝國家保護地區。江汀洞を「優良生態村」と指定」
2007 年	(ユニスコ、済州島を世界自然遺産と指定。韓国唯一)	
2007/03		8地域を候補として指定
2007/04/11	（江汀村賛成派誘致希望）	
2007/05/14	（道知事による誘致発表）	
2007/05/22		国防省が同意。建設の基本計画･設計を着手
2007/06/22		盧武鉉「武装なくして平和は守れない」とし、海軍基地の建設工事を再開
2007/07/12	対策委員会結成	
2007/08/10	誘致主導の村長を解任	
2008	四三平和記念公園完成	
2008/09/17		「海軍専用基地」 から「民軍複合観光美港」へ
2009/12/17		済州島議会が、江汀海岸絶対保全地域解除
2010･11,12	（6 月に当選した新知事、再度江汀村誘致発表）	予算提出
2011/02/09		海軍及び建設業社サムソン建設（Samsung

		Engineering & Construction）大林建設（Daelim Engineering & Construction）が、が、海軍基地予定地に事務所を開所
2011/02		工事開始。同時に基地予定地内の文化古跡調査開始。
2011/03/05	済州島議会が絶対保全地域変更同意議決に対する、取り消し意見案を上程し可決。	
2011/03 ～ 05	‘生命平和結社’など陸地の平和運動団体が江汀村の反対運動に加わる。座り込み、断食などを行う。	
2011/05	民主党、民主労働党、創造韓国党、進歩新党、国民参与党など野 5 党が参加する済州海軍基地真相調査団結成	大洋海軍戦略撤回。国策として済州島で海軍基地を建設する根拠がなくなる。
2011/08/14		海軍基地建設敷地施設保護のため警察が、戦闘警察の人力と装備を増強配置。
2011/08/15	野 5 党真相調査団報告書作成	
2011/08/29		済州地裁から罰則が出る。1 海軍基地の工事現場に侵入する、2 出入り口を占拠する、3 工事車両の邪魔をする、4 許可なく施設を設置することで、工事を妨害した場合、1 回当たり 200 万ウォンを海軍に支払う。
2011/09/02		警察兵力投入し、フェンス設置完了。
2011/09/03	陸地から更に反対運動家たち流入。金浦-済州間で「平和飛	建設工事続行

	行機」をチャーター	
2011/09/09		行政代執行の通告。海軍から、江汀村会と野五党済州道党へ戒告書。海軍基地事業敷地内(中徳三叉路)の施設を自主的に移転、または撤去、除去することを要求
2011/09/16	**チョムスキー、済州海軍基地建設反対に連帯**	西帰浦市からも同要求で行政代執行の通告、
2011/09	日本のシンポジウムなどに参加し、国際的声援を求める	
2011/10/04	真相調査団報告書に基づく済州島の行政事務調査結果報告書発布	
2011/10/05	野 5 党記者会見。 済州島海軍基地事業の再検討を求める	
2011/10/10	「済州平和の島実現のためのカトリック連帯」結成	
2011/11	アメリカ TPP(環太平洋経済連携協定)「環太平洋軍事同盟構築」の動き	
2012/02/22		李明博:米韓 FTA 改定、済州島海軍基地建設続行を再伸
2012/03/06		西帰浦警察が済州海軍基地建設でクロムビ岩の爆破申請を許可
2012/03/07		国防部長:「民軍複合観光美港」取り消し、「海軍専用基地」に戻る。
2012/03/07		3 ヶ月にわたる毎日のクロムビ岩爆破開始。
2012/03/10	第 8 次済州海軍基地白紙化全国市民行動など文化祭を行う	

2012/03/17	クロムビを守るために「第 9 次全国市民集中行動」	
以降	反対運動の続行	2014 年建設完了を目標に建設工事の続行

(Huang ShuYen　東海大学日本語文学系)